



継続して自立した生活を送るための支援が必要
(介護予防教室)

高齢者・介護家族の電話相談について

質問(小池利雄議員) 高齢者・介護家族による電話相談の現況について伺います。

答弁(市長) 本市における高齢者や介護家族からの相談窓口は、市高齢いきがい課の他に地域包括支援センターが対応しております。地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続していくために必要な援助・支援を包括的・継続的に行うための中核機関として、平成十八年度から

設置されたものであります。設置・運営については市内の社会福祉法人に委託し、現在市内三箇所で開催されております。各センターには経験のある看護師、ケアマネージャー、社会福祉士といった三名の専門職員が配置されており、要支援認定者等の介護予防プランの作成や高齢者一人ひとりの相談内容に応じた、必要な福祉サービスの利用に繋げる等の支援を行っております。地域包括支援セン

ターの平成十九年度相談事業実績は、相談者実人数が四千四百四十人、延べ相談件数が七千五百七十件、そのうち電話による相談は、実人数が二千三十三人、延べ相談件数が三千六百六十四件、相談総数の約48%となっております。また、平成二十年十月末までの七カ月の実績は、相談実人数が二千七百九人、延べ相談件数が四千八百五十九件、そのうち電話による相談は、実人数で千四百九人、延べ相談件数で二千五百六件となっており、相談総数の約52%が電話による相談となっております。

か KANSAI 何陋塾の心得

質問(八木英子議員) 素直な心を取り戻すため、何陋塾に学ぶ心の教育について伺います。

答弁(教育長) 何陋塾は、平成二十年十月開塾、内容は、小学生とその親を対象とした「親子論語素読講座」と、大人を対象とした「論語素読講座」の二つの講座を開設しております。受講者は、親子論語素読講座が二十二組四十一名、大人を対象とした論語素読講座が五十五名であります。この「論語素読講座」

での小学生に対する論語素読の狙いと効果については次のとおりであります。論語は、日本でも長い間親しまれてきた世界の古典であり、人のあり方についての教への宝庫であります。そのおよそ五百章の中から主要な百章を選び、素読を通して小学生の皆さんに覚えていただくというものであります。生涯にわたって心の支えとなるこの宝物が、小学生の頃から身につくことは素晴らしい

いことと考えております。また、素読は覚える能力が際立って良い幼少期に、大切なことばを繰り返し声に出して読むことにより覚えてしまう学習方法であります。その際、ことばの内容や意味は一切問わず、内容・意味は、後で、わかる能力や考える能力などが育つてから学ぶのが良いとされております。理解力や思考力が育ってくる時期になると、記憶力は弱まってしまうのです。このように、最も覚える能力が強く、素読の最適とされる小学生を対象とした論語素読講座を開催いたしました。



論語の素読を通して人生の指針を得る